第４号　２０１２年８月

夢気球だより

「夢気球だより」編集部　発行
〒610-0121
城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル２階
城陽市国際交流協会内
電話　0774-57-0713

クラーク・カレッジ同行記

去る７月９日（月）、城陽市と姉妹都市であるヴァンクーバーから当地のクラーク・カレッジで日本語を学習されている学生さん８名、引率の奥原先生の合計９名が日本語の研修の為、城陽市を訪問されました。

城陽の代表的な建造物を見学しながら城陽の歴史と日本語の勉強をして頂こうと、まず国の重要文化財である水度神社へご案内する事になりました。神社に到着し大変驚いたのは、何の躊躇も無く鳥居をくぐり、左手直ぐ傍にある「お手水所」で全員が手を清め拝観に向かった事でした。

神聖な場所での振る舞いについて、日本の文化を事前に勉強されて慎重に行動されている真摯な態度に感銘を覚えました。更に文安５年（１４４８年）に建立された国重要文化財である本殿を拝観しながら、神社の縁起の説明を興味深く聞いておられました。拝観後、鴻巣山の展望台に向かい、五里五里の里と云われる城陽からの素晴らしい景観を満喫した様子でした。

お昼は、お好み屋さんに行き「お好み焼き」と「焼きソバ」それに「餃子」等、典型的な関西グルメに挑戦。皆さんの感想ですが、「アメリカには似たようなレストランが有っても、味が全く違い、やはり味わえない本場の味です」と感動していました。大きなジェスチャーで「美味しい」

「美味しい」を連発し、嬉しそうに箸を運んでいる格好がとてもキュートでした。

その後、国登録有形文化財で、約４００年以上前から寺田に居を構えておられる、庄屋さんを訪ねました。現当主で25代目、丁度アメリカ留学から休暇で一時帰国されているお孫さんにもご案内して頂きましたが、そのお孫さんが27代目当主に当たると云う大変由緒ある「近藤家」です。当主の特別のお計らいで、当時の領主が当家を訪問の際、わざわざ京都伏見からご購入されたと云う由緒来歴のある、当時としては高貴な身分のお方しか住まわれない「書院造り」の建物の中で全員にお茶を立てて頂き、皆さんにとっても、またとない厳粛な時間を過ごした貴重な経験でした。

ＪＩＥＡの事務所に帰り、日本語の勉強を兼ね、現在、学校で専攻の部門、趣味、日本語について等、色々日本語で発表してもらいました。専攻は教育（英語）とか環境と科学、数学、コンピューター等多岐に亘っており多彩な人達が日本語を勉強されており、誠に心強く感じた次第です。

最後に日本語を勉強する上で、何が難しいのかお聞きしたところ、一番は、漢字、その次ぎには、自動詞、他動詞の区別が良く理解出来ない、３．助詞の使い方、４．同じ読み方なのにイントネーションが違う等、例えば「箸」と「橋」とか、我々が外国語を勉強する時も同じ様な悩みに直面しますが、我々が外国の人達に日本語の指導をする場合でも指摘された問題点を良く把握した上で、学習に生かすべきだと改めて気付かされた一日でした。（峯松記）

第５回 国際サロン

「モロッコから日本は近かった？」

７月14日（土）第５回国際サロンをぱれっとＪＯＹＯで開催しました。モロッコ出身の藤原ファテマさん（夢気球の学習者）をゲストに迎えて９名の参加で「モロッコの生活」について気軽に話し合いました。私たち日本人にとってモロッコはアフリカ大陸の遠い異文化の存在で、世界地図での位置確認から話が始まりました。

接することがまれなイスラム文化圏ということで料理の話、社会制度の違い、学校の仕組み、更に男性と女性の規範の違いなど、あれやこれやと気軽に問いかけて、話していただきました。ジェット機で20時間もかかるモロッコ。でも、ファテマさんにとっては若い時から、「日本は近い」憧れの国だったとの意外な話の展開。学校でも日本のことが紹介されており、日本人に対するモロッコ人の受け止めは、好感度のよい存在とのこと（優しい感じ？）で、親日関係の一面を聞くことができました。一度訪問したくなりました。終盤に、私たちにとって心電図を連想するようなアラビア語で「こんにちは」と書いていただき言語の違いを視覚的に感じる一コマでした。日本で生まれ育っている子どもさんはそのアラビア語を学んでいるとのことで、日本で居住しながら母国の文化も大切にしておられるファテマさんの生き方に感銘を受けました。

城陽でたくましく生活されているファテマさんを迎えて、第２弾の異文化理解のための交流をしたいものです。（渋谷記）

【ぱれっとＪＯＹＯからの委託事業として11月に「ぱれっと版国際サロン」を予定しています】

教室紹介 Vol.2

サム君の日本語教室は、予定通り、本日（７／11）をもって終了しました。彼の日本語教室は、昨年の９月14日に手探りで始めましたが、何でもやればできるものだと、10ヶ月経った今は実感しています。

最終日には、彼も「今日が最終日ですね」と確認のメールを入れてきました。そして教室終了時には、日本語で丁寧にお礼を言ってくれました。握手にもすごい力がこもっていました。

「日本語の勉強で難しかったのは何？」という質問に、～のは、～なのは、～ことは、～のに、～なのに、などはわかりにくい。自動詞／他動詞もわかりにくい。読むときは理解できるが、話す時はうまく使えない、などと言う返事が返ってきました。

クラーク・カレッジの学生も似たようなことを言っていましたが、今後の参考にしたい意見です。テキストもそのあたりに工夫をすべきだと思って見直しをしようと考えているところです。（杉島記）

8月に帰国するサム君に質問

Ｑ・日本へはいつ？

Ａ・２年前の８月にＡＥＴの仕事で英国から来ました。

Ｑ・来た目的は？

Ａ・新しい人生を見つけたかったのと、西洋化していない日本の文化に強い関心があったからです。

Ｑ・趣味は何？

Ａ・スノボードとＤＪです。

Ｑ・日本語の勉強は何年ぐらい？

Ａ・ちょうど２年です。日本に来てからＪＩＥＡの日本語教室で勉強を始めました。勉強を始めた頃は、まだ夢気球が無かったです。

Ｑ・夢気球は役に立った？

Ａ・ＡＥＴの仕事をしながら日本語学校に通うのは無理で、夜でも勉強できる夢気球の日本語教室はとても有難いです。１対１で勉強できるのも、教室の時間を自分に合わせてもらえるのも嬉しいです。

Ｑ・日本語の勉強は難しい？

Ａ・とても難しい。多分、世界で一番難しい言語だと思います。文法が複雑です。

Ｑ・日本は好き？

Ａ・絶対にもう一度来たい。できれば来年ぐらいに来たいと思います。白馬でスノーボードをしたいし、日本で仕事を見つけたいとも思っています。

Ｑ・スノボーで鎖骨を骨折したのにまだやりたい？

Ａ・絶対に止められません。

Ｑ・骨折後の経過は順調？

Ａ・もう大丈夫と思っていましたが、最近になって、医者に手術が必要だと言われました。保険が８月に切れるので日本での手術はあきらめました。英国に帰ってから手術をします。

Ｑ・日本に来たらもう一度日本語を勉強したい？

Ａ・日本語を勉強します。できれば日本語検定を受けたいと思います。

Ｑ・目標に向かって頑張ってください。

Ａ・はい、有難うございます。

（杉島記）

運営委員会

「何をしているの？」

皆さんご存知の様に、夢気球の運営委員会は代表を含めて８名で構成されています。「何をしているの？」とのご質問ですか。折角ですから、少し説明してみましょうか。

その前に、我々の運営委員会の役割は「日本語支援がよりスムーズに進捗する様な方策を考えたり、各種行事（総会・支援者交流会等）の立案・実行を国際交流協会と一緒になって行う組織」なのです。「そんな事は知っているよ」とおっしゃる方は有難うございます。

その他、さんさんフェスタ等への参加を含めて、城陽市男女共同参画センターともつながりもあるんですよ。筆者が顔をつっこんでいる組織は結構あるのですが、大体が女性優位（女性の方が強いとかの意味ではありません。メンバーが女性の方が多いの意ですぞ）の場合が圧倒的に多いのですが、夢気球は稀なケースと言えるでしょうか、女性は１名のみで寂しがっておられます。女性の方の運営委員会への参加を歓迎致します。

２０１１年７月15日の「日本語教室運営検討会」以来、集まりや新聞でお知らせしています様に、色んな内部の会合や外部組織等への参加の用意・実施の準備などで年末年始や連休を除き、概ね毎週金曜日午前10時から約２時間強の打ち合わせを重ねて今日に到っております。世間話から始まる時もありますし、いきなり議論に入る場合もあり、毎回ワイガヤで通常は６名以上の出席を得て開催されています。協会の大久保さんも本来の業務に支障が無い程度に参加してもらっています。会議の進行から議事録や総会・支援交流会の資料の作成迄、代表にかかる比重は大きいものがありますが、快く引き受けて戴いております。メンバーの構成は手前みそかも知れませんが、多士済々と言えるでしょうし、議論が途切れる事はまずありません。話し合いの結果、良いとみんなが同意した事項については即実行の姿勢を貫き、その一つの例が「夢気球だより」の発刊です。可能な限り会員間の情報の共有化を図るのも運営委員会の重要な役割だと考えています。課題はこれからも多いと思いますが、着実に一歩づつ進歩して行きたいと願っております。（広報・村上記）

あたらしい教室

あたらしい日本語学習支援教室が出来たのでお知らせします。

中国の方（３名）アメリカの方（１名）がそれぞれ「国際交流協会」で。ベトナムの方２名が「ぱれっとＪＯＹＯ」で６月から支援が始まりました。みなさん意欲的でこれからどんな教室になっていくのか楽しみです。

まだ支援が始まったばかりで詳しい紹介はできませんが、教室が落ち着きましたら詳しい事は本誌にて…。

（編集部・西山記）

「夢気球」設立一周年記念 学習者／支援者交流会

開催日時：2012年9月30日（日）
午後1時30分～4時
場所：城陽市国際交流協会

見出しの要領で学習者と支援者の交流会を計画しています。詳しい内容はおってお知らせいたしますが、9月30日は是非とも皆さんお集まり下さい（運営委）